

図書館短歌 応募作品 ()内はペンネーム

1. 二刀流 奥義著す 五輪の書 武芸達人 宮本武蔵 (粹人)
2. 図書館の 静かの海に 漬かりきる 時がたつのも 気づかぬままに (本の虫)
3. お目当ての 隣の本を 手に取った この出逢いこそ 運命なのだ (かつすん)
4. 遅過ぎた 本の醍醐味 おいしさを 味わう若さ 取り戻しつつ。 (H.Y)
5. 大人こそ 絵本を読めと 誰か言う 人のやさしさ 強さ引き出す (H.Y)
6. ふくらんだ パン生地のように 優しくて こどもの借りた 本は愛しい (あさのつき)
7. 検索し 番号棚に行ったけど 見つけきれずに スタッフにきく (奇数ぐうすう)
8. 本好きに 効を奏した 読み聞かせ 我が子今でも 本が友達 (羽衣)
9. 八歳で 渡米していた 津田梅子 大学作り 御札にも成る (夢枕)
10. ローリング ハリーの世界 描き出し 魔法の国へ 皆を引き込む (カリスマ)
11. 休館日 決して入れぬ ライブラリー ガラスの向こう スタッフ見つけ (奇数ぐうすう)
12. 生き方を 教えてくれる 本あれど 勝手な解釈 認知症なり (H.Y)
13. 図書館は 天国だよと 我が子たち 利用者カード 今も活用 (夕顔)
14. 触れないで 繊細なのよ わたしたち 濡れた手なんて カンベンしてよ (かつすん)
15. 谷崎の 痴人の愛の 小説は 妻にメロメロ 我もメロメロ (高砂)
16. 図書館の ずらりと並ぶ 背表紙に 五木寛之が 手招きをする (C.H)
17. 旅こそが ユートピアだと 三木清 我も人生 旅が一番 (鶴亀)
18. 人気のあの子は 今日もない わたしだって...ああまた通り 過ぎていく (かつすん)
19. 図書館に 力もらって 喜びの 文化が伸びる 若葉にも似て (H.Y)

20. はつこいは 同じ本が 好きだった 彼にあえるよう かみに頼むよ (うし)
21. 放浪記 食と金とで 苦労した 強い女の 生き様見えた (でんぐり返り)
22. 本好きは そこで始まる 手に取れば 心の栄養 からだ健全 (H.Y)
23. 吾子膝に 効を奏した 読み聞かせ 読めぬ絵本を 口ずさんでた (バカボンのパパ)
24. 確信と 強さを生むは 図書館の 本が叶える 生涯の夢 (H.Y)
25. 俵万智 東野圭吾 辻仁成 村上春樹と 新書切れ間なし (本に幸せ)
26. 花伝書に 世阿弥の心 書き記す 秘すれば華に 真実がある (能うさぎ)
27. お日様に 真っ直ぐ向かい 凜と咲く 向日葵のような 人になりたい (きっこう)
28. ボーヴォクール 第二の性に 込めたのは 女性が受ける 不当告発 (レディババ)
29. 川遊びで 見つけた小石に 絵を書いた 目口耳手足 何に見えるかな (ゆうぽん)
30. なんとなく 目を滑らせて 手を伸ばす 「なにか気になる」 だけで読み出す (A.K)
31. すうすうと 寝息がきこえた 5 ページ目 ここからだけど おもしろいのは (胸一杯太郎)
32. 前作の方が好きだな勢いが 本屋大賞私ノ部門 (A.K)
33. ニヤニヤと長めの絵本を もってくる めんどいしあわせ 毎夜のルーティン (KK 太郎)
34. 貸し出され 生まれた隙間 笑み浮かぶ 推しの作家が読まれて嬉し (A.K)
35. いたいのいたいのとんでいけ おそとにポーイ 子の魔法に癒される時 (まる子)
36. 「返すだけ」「すこし見るだけ」足止まる。気づいたときは「借りて」「読んでも」 (A.K)
37. マザー・テレサのとなりに並ぶ ジョン・レノン 伝記はいつもひんやりとして (Y.M)
38. 眠れぬ夜 稲妻の光 雨の音 時計を見ぬ間に 朝を迎える (まる子)
39. Amazon と違う出会いがここにあり レビューはどこに書いたものかな (A.K)
40. ひらかれた詩集に花びらは落ちて錨のように今日を刻んだ (M.I)

41. ぎんぎらぎん 玉虫色のカブトムシ カナブンの方がしっくりくるし (まる子)
42. 図書分類番号 759 のマは万華鏡なり書架に光れり (M.Y)
43. いつのまに なくなったのか 細い棒 雛飾りの一部 探しつづける (まる子)
44. 手を離れ、200 グラムが軽くなり けれど活字は瞼に残り (A.K)
45. とりどりの背表紙は波 図書館は海 溺れたくなってもいいよ (M.I)
46. カタカタと 積み木のドミノで ピタゴラ気分 せみの鳴く声 涼しい室内 (まる子)
47. もしかして迷子ですかと問うわれに強くうなづく子は泣きもせず (Y.M)
48. ちりめんじゃこ 運ぶアリたち まじまじと 見つめる親子 真夏の公園 (まる子)
49. 言の葉が静かに眠る森にきて風に吹かれる答えを探す (あおいそうか)
50. 戦時下の誰か読む時 図書館は 焼かずに残せ 文化の華を (H.Y)
51. 図書館の森の果実にひそんでる見知らぬ世界のほのかな光 (あおいそうか)
52. 深淵を日々の暮らしに垣間見る本とビデオと音楽の部屋 (M.T)
53. 図書館の奥にひそかに隠されたドアを開ければあふれるひかり (あおいそうか)
54. わが胸の 青かりし日日 よみがへる 陽水拓郎 うた本の音符 (白木蓮)
55. 図書館の森の奥に隠れてるどこでもドアをきみは知ってる (あおいそうか)
56. 絶版の 本の届いた 図書館へ 向かう歩幅が 広がってゆく (百面相)
57. 図書館の扉をそっと開けたとき未知の世界の風に吹かれる (あおいそうか)
58. 家康が 敗戦の将 描かせた ミスを犯した 戒めとして (凡人)
59. けもの道みたいな廊下を抜け出せば僕を待ってる図書館の森 (あおいそうか)
60. 植物の 図鑑作成 富太郎 新種の名には 妻の名前を (凡人)
61. 図書館は静寂な森 学校を逃れたふたり小さな獣 (あおいそうか)